

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174700823		
法人名	社会福祉法人 清水旭山学園		
事業所名	せせらぎハウス		
所在地	上川郡清水町南3条1丁目1番地		
自己評価作成日	平成23年9月15日	評価結果市町村受理日	平成24年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全職員で考えたケア理念『楽しく』『ゆっくり』『自分らしく』『笑顔』を意識し、利用者様一人一人の思いを実現できるような支援を日々行っています。また、内部、外部研修にも積極的に参加をし、全職員のケア向上に努め、利用者の生活に役に立てる様に取り組んでいます。職員と利用者の関係ではなく、一家族として生活を共にするように心がけています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0174700823&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成23年12月7日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、十勝清水駅から徒歩5分位で、国道274号からも近く、家族等の訪問に便利な所にある。近くに町役場、赤十字病院、保健センターが集約した地区で、日高山脈が眺望でき、季節の移り変わりを感じられる景観の素晴らしい場所に位置している。北側には当法人が運営する特別養護老人ホームを併設している。ホーム内は明るく開放的で、利用者はリラックススペースでゆっくりしたり、居室にいたり、思いの居場所で自分らしく過している。このホールの周囲にそれぞれの居室があり利用者の動向が見えるように配置され、各居室には洗面所、トイレ、手すりが設置され、利便性にも配慮されている。管理者は発想力豊かで、職員の人材育成にも熱心で、外部研修に積極的に参加させ、また教育委員会を設け職員の専門性、自主性、学ぶ力を高め、現状に満足することなく施設全体のレベルアップに取り組んで、利用者一人ひとりの思いが実現できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○			○	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が個々で思いや意見を出し事業者独自の理念を作っている。玄関にも提示してあり御家族・全職員が常時見れるようになっている事及び毎年、全職員に事業計画を配布し共有している。	ケア理念の「楽しく」「自分らしく」「ゆっくり」「笑顔」は誰にでも分りやすい表現で、職員が目指す介護の思いをこめて、全職員で作上げ、理念に沿ったケアの実現に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加し回覧板を利用者の方と一緒に届けたりハウスニュースを班長の所へ届けたりしている。又、町内会・町の行事に積極的に参加をし、地域とのつながりを大切にしている。	清水神社の秋祭りには駅前に向きお祭りに参加し、また、清水町文化祭に利用者の作品を展示し、高齢者施設の理解につなげている。施設の夏祭りには地域の方に声を掛け、地域住民、短大生や高校生などが参加して行われた。	災害時においては地域住民の協力が何よりも必要であり、地域での理解を更に深められることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町での文化祭にGHの日常の作品を出展している。又、ハウスでの生活や日常を主催した研修を通し地域の方に発表している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではGHでの行事や活動状況等報告し、話し合いを行いサービスの向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1回開催し、業務報告、事故や苦情などを報告し、施設行事への参加依頼や意見などを聞き、協議しサービスの質の向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設行事に参加して頂き、避難訓練への参加もお願いし実施するなど協力関係を築いている。	施設長は日頃から町役場に出向き、担当者とも話し合う機会が多く、連絡を密に取りながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し身体拘束につながっているケアがないか討議している。内部研修でも身体拘束に対する学習会を行い、個々で知識が向上するように努めている。	職員間で、利用者に「チョット待ってね」とは使わないルールを作っている。あらゆる身体拘束を排除した姿勢を徹底して、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への派遣や内部研修でも虐待に対して学ぶ機会を設けている。又、虐待に対する委員会については原因不明のあざについて討議をし虐待の予防に努めている。		

せせらぎハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	玄関にてパンフレット等提示している。実際に活用した例はないが、権利擁護に関する委員会を設置し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分時間を取り確認をしながら説明をしている。改定などあった際には家族総会での説明会などを通し随時説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約の段階で苦情や意見箱等の受付口の説明及び行政機関の窓口も玄関や重要事項説明書に明記し説明。又、施設行事等で家族にアンケートを頂き、その意見等を反映している。	意見箱を設置している。利用者とは日々の会話や表情等から、家族等とは来訪時に何でも言える環境づくり心がけ、要望や意見があれば話し合っている。行事でのアンケートをとり、運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に2回管理者、管理職、職員が参加する会議を設けている。又、個別面談を行い意見等反映させるように努めている。日常においても話す機会が多くある。	現場でその都度問題点を検討して、それを会議で取り上げて討議し、現場の提言が反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	教育委員会を設置し毎月の内部研修を実施する事で職員の向上心に繋げる取り組みをしている。又、労働環境については、正職員登用要件を緩和し、希望者は正職員にするように整備した。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への派遣を積極的に行っている。内部研修においても経験年数に応じたスキルアップを行い学ぶ機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修にて情報を交換する場所や同じ地域でのGHとの交流会などを開催し、互いにサービスの質を向上できるように取り組んでいる。又、GH協議会主催の相互研修に参加をし、ネットワーク作りをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に見学して頂きGHの雰囲気を感じて頂きその際に要望や不安な事など聞き説明をしている。又、面談を行い情報を全職員で共有し安心して頂ける関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面談の段階で要望や不安な事など確認を行い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談や他サービスの情報を元に必要としている支援や他サービスを含めた利用も視野に入れ支援するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事洗濯など日常の事は一緒に行うように努めている。利用者から学ぶ事も多くあり、職員と利用者という関係にならないように努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月の手紙で利用者の状態や様子を報告している。又、日頃から家族の悩み要望など積極的に話し、本人を支えていく関係作りを大切にしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から情報を得て個別外出を計画している。又、自宅や馴染みの場所兄弟宅への外出も積極的に行うように努めている。	利用者、家族等から個別の希望や情報を得、知人を訪ねたり、毎月の外食、家族に会いに行くなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の支え合いが日常的にある。毎月の外食や日常においても利用者同士が会話できる環境を作っている。相性を踏まえ折り合いが合わない時には職員が間に入り対応をしている。		

せせらぎハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	経済的理由により併設本体施設へ異動された方がいるが定期的に往き来し関係作りを大切にしている。家族に会った際にも挨拶、会話をするようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の中で思いや希望を引き出せるように努めている。会議などで情報を共有し本人本位での生活が送れるように努めている。	日常の会話や表情から希望や思いを汲み取り、家族から希望や意向を聞き、会議の中で情報を共有して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、後と本人家族から情報を得てGHでも自宅や今までの生活が送れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の自宅での過ごし方を把握し、その後のGHでの生活を記録し把握に努めている。会議や送り等で情報の共有をし、一人一人の生活の送り方を大切にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族からの情報を得て、現状を把握した上で介護計画を作成している。会議でも全職員が参加し確認を行い、GHでの生活が本人にとって満たされるように努めている。	利用者の体調や生活状況を記録し、毎月チーム会議をし、利用者や家族の意見を取り入れ、介護計画を作成している。変化があるときはその都度見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	24時間ケース記録を使用し、気づきなど申し送りや業務日誌を用いて情報を共有するようにし、その情報は介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一敷地内にある併設事業所も含め、ご本人や家族から生まれるニーズに対し、柔軟な支援をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	SOSネットワークの活用。又、お茶の会や書道など1人1人に合ったサークル活動が自由に参加できるようになっている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人や家族の希望に沿い選択して頂く事や往診時の付き添い等で情報を共有し関係を築いている。又、協力医療機関の医師の携帯に直接電話を掛けられる体制も整えている。	本人や家族の希望に沿ってかかりつけ医を決め支援している。協力医療機関より定期的な往診があり、緊急時は何時でも連絡可能な体制にある。特別養護老人ホーム看護師と連携している。	

せせらぎハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置し相談や連携体制も整っており、不在時でも電話連絡できる体制にしている。御家族より医療面での相談があった時にも看護師が仲介に入り相談できる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には職員が毎日面会に行っている。その際には看護師とも情報交換を行い、全職員に情報を共有する様にしている。退院後もすぐに対応できるように体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重要事項説明書にも重度化、終末期に関する方針をのせ御家族に説明を行っている。又、そのような場合医師、管理者、看護師など含めて面談を行い、今後の方針を共有する体制を整えている。	契約時に重度化や終末期に向けた指針を作成し、本人、家族と話し合い、同意を得ている。重度化の際には、医師、看護師、家族を含めた話し合いを行う体制にもなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命講習(AED・心肺蘇生)の講習を受けている。マニュアルや内部研修も設け、急変時の対応など学び実践力を身に付けるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施及びマニュアルの作成、全職員が把握するよう努めている。又町内会及び町役場には後方支援の協力体制をお願いし体制を築いている。	開設時からスプリンクラーを設置している。年2回消防署の指導を受け避難訓練を実施している。屋外にも非常ベルを設置しており緊急時には隣接している役場の職員、地域住民が駆けつけてくれる訓練も実施している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴や現状を把握するように努め、何でも介入するのではなく、出来る事を大切に、誇りやプライバシーに配慮している。	利用者の尊厳と権利を尊重するように研修し、日頃から利用者の気持ちを考えて言葉使いに気をつけ、さりげないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話はもちろん表情やしぐさから本人の思いや希望を読み取れるように、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常には決まりごとではなく利用者の方との会話や天候等から日光浴、買い物等その時の状況により日々過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人に選んで頂き外出、行事など状況に合わせ、おしゃれができる様に配慮している。		

せせらぎハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に準備片付けを行い食事の出来る課程をとち楽しんでる。又、利用者の嗜好もきちんと把握し個別メニューや食べたい物など随時対応している。	利用者と相談しながら献立を立て、能力に応じて盛付けや後片付けを職員と一諸に行っている。会話を楽しみながら職員と共に食卓を囲んで食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を用いて確認でき把握できるようにしている。又、隣接施設の管理栄養士に指導助言を受けられる体制となっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日の口腔ケアの実施及び口腔状態は必要に応じて歯科衛生士の指導、歯科通院を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンの把握に努めている。パットの変更や紙パンツの使用を中止するなど一人一人の状態合わせ対応をしている。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し職員が声かけし、入所時はオムツをしていた利用者が今では、オムツをしている人は一人もいない。90才以上の利用者が2人いるが職員が個々の状況に応じた排泄の自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のバナナミルクや粉末食物繊維を使用し予防に取り組んでいる。又、体操など体を動かすことを大切に支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望に合わせて入浴をされている。曜日など関係なく本人が入りたい日に入れるようにし、安心して入浴出来るように配慮している。	浴室は2室あって、手摺等安全に配慮されていて、毎日24時間好きな時間に、ゆったりと入浴出来る体制にしている。現実には夕食後の入浴希望者が全員である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、離床時間はきめていなく、個々の生活習慣を大切にしている。又、夜間眠れない方についても、そばに付き添い安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルを作成し確認出来るようにしている。薬変更時は職員間で共有、把握できるようにしている。又、辞典も用意し副作用など職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や本人の得意な事を把握し個々の力を活かせる場を提供し日常の中で役割や楽しみをもてるように支援している。		

せせらぎハウス

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があった際には買い物や自宅に出かけている。又、外食や個別外出についても常時行っている。家族に協力を得て外出や普段会えない兄弟などに会いに行く等の支援をしている。	買い物や散歩をして、常に太陽に触れる機会を作って支援している。又、家族に会いに行ったり、月に1度は外食に出かけ、利用者は楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の承諾を得て本人持ちの方もいる。又、本人の状態を把握し、困難な場合は買い物の際に会計など行って頂くように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があった際には対応をしている。又、年賀状や手紙についてもご本人の希望に添い代筆等行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一面ガラス張りから見える日高山脈や畑を見て季節感を感じられるようになってきている。室内においてもキッチンからの料理の匂いや食器の音など生活感を感じられる。又、掲示物についても季節ごとに変更をしている。	居間と食堂は一体で利用者の書道、絵、折り紙等の作品が貼られている。窓からは明るい日差しの中で利用者と職員がカルタ取りをしている場面も見受けられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを多く設置し、気の合った方と話せる環境を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談をしながら自宅などより馴染みのものを持って来られ安心して居心地よく生活できるようにしている。	居室には使い慣れた鏡、家具、仏壇など馴染みの物を持ち込んで居心地良くなっている。トイレ、洗面所、テレビ、冷蔵庫、ベットは施設備え付けである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個人のカや安全に生活できるようにソファの配置や椅子を設置している。又、カレンダーや看板などは利用者が目につくようにしている。		